

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-274601

(P2002-274601A)

(43) 公開日 平成14年9月25日 (2002.9.25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マ-ト* (参考)
B 6 5 F 1/00		B 6 5 F 1/00	E 3 E 0 2 3
B 6 5 D 43/26		B 6 5 D 43/26	3 E 0 6 2
B 6 5 F 1/14		B 6 5 F 1/14	Z 3 E 0 8 4
// B 6 5 D 25/04		B 6 5 D 25/04	Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2001-392487 (P2001-392487)
(62) 分割の表示 特願平9-7807の分割
(22) 出願日 平成9年1月20日 (1997.1.20)

(71) 出願人 000010054
岐阜プラスチック工業株式会社
岐阜県岐阜市神田町9丁目25番地
(72) 発明者 神谷 和志
岐阜県岐阜市神田町9丁目25番地 岐阜プ
ラスチック工業 株式会社内
(74) 代理人 100068755
弁理士 恩田 博宣 (外1名)

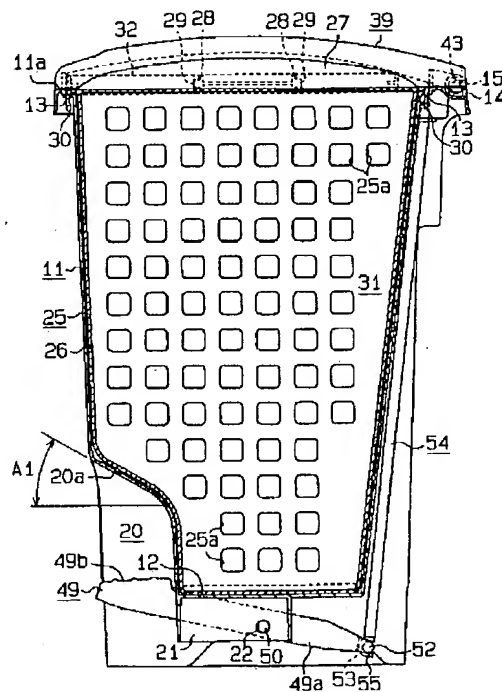
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 分別容器

(57) 【要約】

【課題】 容器本体の前後両壁が外側に膨出するのを防止することができて、外観を向上できる分別容器を提供する。

【解決手段】 上面を開口したほぼ四角筒状の容器本体11内に仕切り板25を立設配置して、容器本体11の内部にごみ等の収容物を分別収容するための複数の収容空間31を左右に区画形成する。容器本体11の開口縁の前後位置には一対の係合孔13を形成する。仕切り板25の前後両端には各係合孔13に係合可能な一対の係合突起30を形成する。係合孔13と係合突起30との係合により、容器本体11の前後両壁を仕切り板25を介して連結状態に保持する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 開閉自在の蓋板を備え、上面を開口したほぼ斜状四角筒状の合成樹脂製である容器本体内に仕切り板を立設配置して、容器本体の内部に横方向に配列された複数の収容空間を区画形成し、それらの収容空間にごみ等の収容物を分別して収容するようにした分別容器において、

前記容器本体の開口縁と仕切り板との間には、凹凸関係で係合して前記容器本体の前後両壁が外側へ膨出するのを防止する係合部を設けた分別容器。

【請求項2】 前記係合部は、前記仕切り板の前後両端に下方へ向かって突出形成された一对の係合突起を含む請求項1に記載の分別容器。

【請求項3】 前記係合部は、前記仕切り板の前後両端に形成された一对の係合孔を含む請求項1に記載の分別容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、ごみ等の収容物を種類別に分別して収容するための分別容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種の分別容器としては、例えば次のような構成のものが公知である。すなわち、容器本体が合成樹脂により上面を開口したほぼ四角筒状に形成され、その内部に仕切り板が立設配置されている。そして、この仕切り板により容器本体の内部に一对の収容空間が区画形成され、それらの収容空間にごみ等の収容物を分別して収容するようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、この種の分別容器を使用する場合には、各収容空間に買い物袋等の収容袋を挿入配置した状態で、それらの収容袋内にごみ等の収容物を分別収容することが多い。そして、この種の分別容器においては、容器本体の各コーナ部に大きな丸みを形成して、収容袋を各収容空間の内周面に沿わせて挿入配置できるようにしている。

【0004】加えて、この種の分別容器においては、仕切り板により容器本体の内部に、所定容量の左右一对の収容空間を区画形成する必要があるため、容器本体の左右方向の幅が大きくとられている。このため、容器本体は横断面が横長四角筒状の筒型形状となっている。

【0005】しかしながら、このように容器本体が横長四角筒状の筒型に形成されるとともに、容器本体の各コーナ部に大きな丸みが形成されていると、各収容空間に収容物を収容した際に、容器本体の前後両壁が外側へ膨出しやすくなる。このため、外観が悪くなるばかりでなく、蓋板が完全に閉まらなくなって、収容物の臭気が外部に漏出するという問題があった。また、前後両壁と仕切り板との間に隙間ができて、仕切り板が倒れやすくな

り、各収容空間に収容物を安定して分別収容することができないという問題があった。

【0006】この発明は、このような従来の技術に存在する問題点に着目してなされたものである。その目的とするところは、容器本体の前後両壁が外側へ膨出するのを防止することができて、容器本体の外観を向上できるとともに、蓋板の閉鎖位置への配置を確保できる分別容器を提供することにある。また、その上の目的とするところは、容器本体内の各収容空間に収容物を安定して分別収容することができる分別容器を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、請求項1に記載の発明では、開閉自在の蓋板を備え、上面を開口したほぼ斜状四角筒状の合成樹脂製である容器本体内に仕切り板を立設配置して、容器本体の内部に横方向に配列された複数の収容空間を区画形成し、それらの収容空間にごみ等の収容物を分別して収容するようにした分別容器において、前記容器本体の開口縁と仕切り板との間には、凹凸関係で係合して前記容器本体の前後両壁が外側へ膨出するのを防止する係合部を設けたものである。

【0008】請求項2に記載の発明では、請求項1に記載の分別容器において、前記係合部は、前記仕切り板の前後両端に下方へ向かって突出形成された一对の係合突起を含むものである。

【0009】請求項3に記載の発明では、請求項1に記載の分別容器において、前記係合部は、前記仕切り板の前後両端に形成された一对の係合孔を含むものである。

さて、各請求項に記載の分別容器においては、仕切り板が係合部の凹凸係合により容器本体の開口縁に係止されて、容器本体の前後両壁が仕切り板を介して連結された状態にある。このため、容器本体の各収容空間に収容物を収容した際に、容器本体の前後両壁が外側へ膨出するおそれはない。従って、容器本体の外観が悪くなったり、蓋板が確実に閉鎖位置に配置されなくなったりするのが抑制される。また、仕切り板が倒れやすくなったりすることはなく、各収容空間に収容物を安定して分別収容することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】以下に、この発明の一実施形態を、図面に基づいて詳細に説明する。図1～図6に示すように、容器本体11は合成樹脂により上面を開口するとともに、左右に長いほぼ長四角形の筒状に形成され、その4つのコーナ部には大きな丸みが形成されている。

【0011】図2及び図3に示すように、嵌合溝12は容器本体11の底壁の上面中央に前後方向へ延びるように形成されている。一对の係合部としての係合孔13は嵌合溝12の前後両端に対応するように、容器本体11の上端開口縁の前後に形成されている。

【0012】図6に示すように、一対の支持台14は前記容器本体11の上端開口縁の後部中央に並設形成され、それらの両側には各一対の支持ピン15が突設されている。一対の窪み部16は各支持台14の前面に形成され、それらの底部には透孔17が形成されている。一対の指挿入用凹部18は容器本体11の上端開口縁の両側に形成され、それらの前部には係止凸部19が内側に向かって突出形成されている。

【0013】図1に示すように、操作用凹所20は前記容器本体11の前面下部に形成されている。そして、図3及び図5に示すように、この操作用凹所20の上面20aが水平面に対して15〜70度の範囲内の所定角度A1で傾斜されるとともに、操作用凹所20の両側面20bが垂直面に対して15〜70度の範囲内の所定角度A2で傾斜されている。これにより、操作用凹所20の開口面積が前方ほど広くなるように形成され、スリッパ等の履物を着用した状態で、操作用凹所20内へ足を容易に挿入できるようになっている。

【0014】図2に示すように、各一対の支持板21は前記操作用凹所20に対応して、嵌合溝12の両側下部に位置するように、容器本体11の底壁下面に所定間隔おきで突出形成されている。各一対の支持孔22は各支持板21に、それぞれ同一軸上に位置するように形成されている。

【0015】なお、容器本体11は、後述する蓋板39が取り外された状態で、他の容器本体11と嵌合状態で積み重ねることができるように、下方へ向かって若干細くなる斜状に形成されている。

【0016】図7に示すように、仕切り板25は合成樹脂によりほぼ平板状に形成され、その周縁以外の位置には多数の肉盛り用孔25aが透設されている。一対のフランジ26は仕切り板25の周縁の両側に突出形成されている。一対の係止板27は上端フランジ26から上方に向かって形成されている。各一対の支持片28は前記係止板27の両外側面に突設され、それらの前後両側面には支持ピン29が突出形成されている。

【0017】一対の係合部として係合突起30は容器本体11の上端開口縁の係合孔13に係合可能に対応するように、仕切り板25の上端における前後両端に下方へ向かって突出形成されている。

【0018】そして、図2に示すように、前記仕切り板25はその下端フランジ26を容器本体11の嵌合溝12に嵌合させた状態で、容器本体11内の中央に着脱可能に立設配置され、これによって容器本体11の内部に左右一対の収容空間31が区画形成されている。また、図3に示すように、この仕切り板25の立設状態で、仕切り板25の各係合突起30が容器本体11の上端開口縁の各係合孔13に係合され、これによって容器本体11の前後両壁が仕切り板25に対して連結状態に保持されている。

【0019】図7に示すように、一対の係止リング32は合成樹脂により環状に形成されている。一対の支持片33は各係止リング32の外面に所定間隔おきで突設され、これらの支持片33には支持孔34が形成されている。干渉防止用凹部35は容器本体11上の各窪み部16を回避して、後述の連結板54との干渉を避けるように、各係止リング32の外周の一部に形成されている。そして、これらの係止リング32は支持孔34を仕切り板25の支持ピン29に嵌合させることにより、仕切り板25の上端両側に上下に回動可能に取り付けられている。

【0020】また、図2に示すように、仕切り板25が容器本体11内に立設配置された状態で、両係止リング32を容器本体11の上端開口縁の段部11aに沿って水平位置に回動配置したとき、係止リング32の上面の一部が容器本体11上の係止凸部19に係止保持される。この状態で、容器本体11内の各収容空間31内に挿入配置された買い物袋等の収容袋36の開口縁が、容器本体11の上端開口縁に保持され、それらの収容袋36内にごみ等の収容物を種類別に分別して収容できるようになっている。

【0021】さらに、容器本体11上の指挿入用凹部18から指を挿入して、係止リング32と容器本体11上の係止凸部19との係合を解除することにより、両係止リング32を図2に鎖線で示す上方位置に回動させて、収容袋36の開口縁の係止を解放してごみ廃棄等のために収容袋36を取り出すことができるようになっている。そして、この係止リング32等を持ち上げることにより、必要に応じて仕切り板25を容器本体11内から取り出すことができる。

【0022】仕切り板25が容器本体11の外部にある状態においては、両係止リング32を仕切り板25に沿うように折り畳むことができる。従って、工場出荷時等の運搬や保管に際して便利である。

【0023】図1〜図3に示すように、一対の蓋板39は合成樹脂により両者全体で中高となるように形成され、その外周縁には下方へ向かってフランジ部40が突設されている。そして、特に、中高となっている部分に対応する内側フランジ部40aの下端縁には円弧状の凹所41が形成され、その内側フランジ部40aの幅が全長に亘ってほぼ同一となるように、かつ他の部分のフランジ部40の幅とほぼ同一となるように形成されている。これにより、成形時に蓋板39に引け等に起因する成形不良が生じないようにしている。

【0024】図3、図4、図8及び図9に示すように、取付凸部42は前記容器本体11の支持台14と対応するように、各蓋板39の後部中央において近接して突出形成されている。一対の断面ほぼ横U字状の係合溝43は後方に向かって開口するように、取付凸部42の下部に所定間隔をおいて形成されている。円弧状の抜け止め

片44は各係合溝43の開口縁に突出形成され、それらの外面には傾斜ガイド面44aが形成されている。連結突起45は係合溝43間に位置するように取付凸部42の下面に突設され、その下端前方へ向かっては係止爪46が突出形成されている。

【0025】そして、図9に示すように、前記両蓋板39の取付凸部42を容器本体11の各支持台14に前部上方から押し付けることにより、支持台14上の一对の支持ピン15が取付凸部42の下部の各係合溝43内へ、傾斜ガイド面44aに沿って抜け止め片44を乗り越えながら嵌合される。これにより、両蓋板39が容器本体11の各収容空間31の上方に、それぞれ開閉回動可能に取り付けられている。そして、図2に示すように、各蓋板39の開鎖状態においては、それらの内側フランジ部40aが仕切り板25上の一对の係止板27間に位置するようになっている。そして、蓋板39が開放状態から閉鎖方向に回動されたときには、上端フランジ部40aがその後部側の部分から順次係止板27間に入り込み、上端フランジ部40aと係止板27との干渉が回避されるようになっている。

【0026】また、この蓋板39の取り付け状態においては、抜け止め片44により支持ピン15が係合溝43内に抜け止め保持されている。このため、取付凸部42が容器本体11の中央側に配置されていて、蓋板39がその開放時に片持ち状態であっても、蓋板39の左右両側方への下降傾斜が防止され、係合溝43が支持ピン15から離脱して、蓋板39が外れるおそれはない。

【0027】図1～図6及び図10に示すように、一对の操作ペダル49は合成樹脂により一体に形成され、支持アーム部49a及び足踏み部49bを備えている。一对の支持ピン50は支持アーム部49aの両側中間部に突出形成されている。ストップ部51は足踏み部49bの後端中央から後方へ短く延びるように、支持アーム部49aの上面に突出形成されている。係合ピン52は支持アーム部49aの後端に透孔53を介して形成されている。

【0028】そして、図2～図4に示すように、各操作ペダル49の支持ピン50を容器本体11の支持板21上の支持孔22に嵌合させることにより、各操作ペダル49が支持板21間に回動可能に取り付けられている。そして、これらの操作ペダル49の足踏み部49bが容器本体11の操作凹所20内に突出配置されている。

【0029】図3及び図4に示すように、一对の連結板54は合成樹脂により縦長の平板状に形成されている。係合フック55は各操作ペダル49の係合ピン52と係合可能に対応するように、各連結板54の下端に形成されている。連結環56は各蓋板39の係止爪46と係合可能に対応するように、各連結板54の上端に形成され、その連結環56の部分は透孔57を介して上方に突出されている。

【0030】そして、両連結板54は容器本体11の後面中央に立設配置され、それらの下端の係合フック55において各操作ペダル49の係合ピン52に係合されている。また、両連結板54の上端の連結環56は蓋板39の係止爪46に係合されている。これにより、一对の蓋板39が連結板54を介して一对の操作ペダル49に各別に連結されている。

【0031】さらに、この連結板54による連結状態で、前記両蓋板39が自重によって常には図4に実線で示す閉鎖位置に回動配置され、操作ペダル49がストップ部51と容器本体11の下部との係合によって規制されるほぼ水平状態に保持されるようになっている。そして、この状態で操作ペダル49の足踏み部49bを踏み込み操作したとき、操作ペダル49が図4の反時計方向に回動され、連結板54を介して蓋板39が同図に鎖線で示す開放位置へ回動されて、容器本体11の収容空間31の上面が開放されるようになっている。

【0032】次に、前記のように構成された分別容器の作用を説明する。さて、この分別容器を使用する場合には、操作ペダル49の踏み込み操作によって、両蓋板39を図4に鎖線で示す開放位置に回動配置する。さらに、仕切り板25上の両係止リング32を図2に鎖線で示す上方位置に回動配置し、この状態で容器本体11の各収容空間31内に、買い物袋等の収容袋36を挿入配置する。

【0033】その後、両係止リング32を容器本体11の段部11a上に位置した図2に実線で示す水平位置に回動配置すると、係止リング32の一部が容器本体11上の係止凸部19に係止される。これにより、各収容空間31内に挿入配置された収容袋36の開口縁が、容器本体11の上端開口縁に係止保持される。そして、この状態で、各収容袋36内にごみ等の収容物を種類別に分別して収容することができる。

【0034】この収容物の分別収容後に、操作ペダル49の踏み込み操作を解除すると、蓋板39が自重により図4に実線で示す閉鎖位置に回動配置されて、収容空間31の上方が閉鎖される。従って、その後は、操作ペダル49の踏み込み及び踏み込みの開放により蓋板39が開閉され、収容袋36内にごみ等を収容することができる。ごみ等を収容袋とともに容器本体11から取り出して廃棄する場合には、係止リング32と係止凸部19との係合を解除して、係止リング32を上方へ回動させ、収容袋36を容器本体11内から取り上げればよい。

【0035】前記の実施形態によって期待できる効果について、以下に記載する。

(a) この実施形態の分別容器においては、容器本体11の前後開口縁と仕切り板25の前後両端との間に、凹凸関係で係合する係合部としての係合孔13及び係合突起30が設けられている。そのため、この係合孔13と係合突起30との係合により、容器本体11の前後両

壁が仕切り板25を介して連結状態に保持されて、容器本体11の各収容空間31に収容物を収容した際に、容器本体11の前後両壁が外側に膨出するのを防止することができる。従って、容器本体11の外観が悪くなったりとすることがない。また、蓋板39を確実に閉鎖位置に配置することができて、収容物の臭気が外部に漏出するのを抑制できる。しかも、仕切り板25が倒れやすくなったりすることはなく、各収容空間31に収容物を安定して分別収容することができる。

【0036】(b) 凹凸関係の係合部が、容器本体11の開口縁に形成した一对の係合孔13と、仕切り板25の上部両側に形成した一对の係合突起30とから構成されている。このため、係合孔13と係合突起30との簡単な係合構成により、容器本体11の前後両壁が外側に膨出するのを確実に防止することができる。

【0037】(c) 容器本体11の上端開口縁には支持台を設け、その支持台14の両側には一对の支持ピン15が突設されている。一方、蓋板39にはその支持台14に対応するように取付凸部42が突出形成され、その取付凸部42の下部に所定間隔をおいて一对の係合溝43が形成されている。各係合溝43の開口縁には、抜け止め片44が突出形成されている。そして、蓋板39の取付凸部42を容器本体11の支持台14に押し付けることにより、前記支持ピン15が抜け止め片44を乗り越えて係合溝43内へ嵌合するようになっている。このため、蓋板39の取り付け状態においては、抜け止め片44により支持ピン15が係合溝43内に抜け止め保持される。そして、取付凸部42が容器本体11の中央側に配置されていて、両蓋板39がその開放時に片持ち状態であっても、両蓋板39の左右両側方への下降傾斜が防止される。従って、係合溝43が支持ピン15から離脱して、両蓋板39が外れるのを防止することができる。

【0038】(d) 容器本体11の操作凹所20の上面20aが水平面に対して15〜70度の所定角度A1で傾斜されるとともに、操作凹所20の両側面20bが垂直面に対して15〜70度の所定角度A2で傾斜されている。このため、スリッパ等の履物を着用していても、操作凹所20内へ足を支障なく挿入して、操作ペダル49を容易に踏み込み操作することができる。

【0039】(e) 仕切り板25に一对の係止リング32が回転可能に取り付けられ、それらの係止リング32の外周の一部には容器本体11の各窪み部16を回避するように、干渉防止用凹部35が形成されている。このため、連結板54と係止リング32等との干渉を避けるばかりでなく、各収容空間31内に挿入配置された収容袋36の開口縁を、これらの係止リング32により係止保持した状態で、操作ペダル49の操作により蓋板39を開閉させた場合でも、収容袋36の開口縁の後部が蓋板39の係止爪46と連結板54の連結ピン56との

係合部等に噛み込まれるおそれを防止することができる。

【0040】(f) 蓋板39の内側フランジ部40aの下端縁に円弧状の凹所41が形成され、その内側フランジ部40aの幅が全長に亘ってほぼ同一となるように形成されている。このため、蓋板39を合成樹脂で一体に成形したとき、蓋板39の中間部に引け等に起因する成形不良が生じるおそれを防止することができる。

【0041】なお、この発明は、次のように変更して具体化することも可能である。

(1) 前記実施形態とは逆に、容器本体11の上端開口縁の前後位置に一对の係合部としての係合突起30を突設し、仕切り板25の前後両端に係合突起30と係合可能な一对の係合部としての係合孔13を形成すること。このように構成しても、前記実施形態と同様な効果を享受できる。

【0042】(2) 容器本体11内に複数の仕切り板25を立設配置して、それらの仕切り板25により、容器本体11の内部に3個以上の複数の収容空間31を区画形成すること。

【0043】次に、前記実施形態から把握される技術的思想について述べる。

・ 前記容器本体の下部には操作ペダルを備え、その操作ペダルを連結板を介して蓋板に連結し、前記容器本体の上端開口縁には支持台を設け、その支持台の両側には一对の支持ピンを突設し、前記蓋板にはその支持台に対応するように取付凸部を突出形成し、その取付凸部の下部に所定間隔をおいて一对の係合溝を形成し、各係合溝の開口縁には抜け止め片を突出形成し、蓋板の取付凸部を容器本体の支持台に押し付けることにより、前記支持ピンが抜け止め片を乗り越えて係合溝内へ嵌合するようにした請求項1〜3のいずれか1項に記載の分別容器。

【0044】・ 上面が開口された容器本体の開口部を開閉する蓋板を備えた容器の蓋板の支持構造において、前記容器本体の上端開口縁には支持台を設け、その支持台の両側には一对の支持ピンを突設し、前記蓋板にはその支持台に対応するように取付凸部を突出形成し、その取付凸部の下部に所定間隔をおいて一对の係合溝を形成し、各係合溝の開口縁には抜け止め片を突出形成し、蓋板の取付凸部を容器本体の支持台に押し付けることにより、前記支持ピンが抜け止め片を乗り越えて係合溝内へ嵌合するようにした容器の蓋板の支持構造。

【0045】これら2項に記載の発明によれば、蓋板の取り付け状態においては、抜け止め片により支持ピンが係合溝内に抜け止め保持される。このため、取付凸部が容器本体の中央側に配置されていて、蓋板がその開放時に片持ち状態であっても、蓋板の左右両側方への下降傾斜が防止される。そして、係合溝が支持ピンから離脱して、蓋板が外れるのを防止することができる。

【0046】

【発明の効果】この発明は、以上のように構成されているため、次のような効果を奏する。各請求項に記載の発明によれば、容器本体の前後両壁が外側に膨出するのを防止することができ、外観向上に寄与できるとともに、蓋板を確実に閉鎖位置に配置でき、収容物の臭気が外部に漏出するのを抑制できる。また、容器本体内の各収容空間に収容物を安定して分別収容することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明の分別容器の一実施形態を示す斜視図。

【図2】 その分別容器の縦断面図。

【図3】 図2の3-3線における断面図。

【図4】 図2の4-4線における断面図。

【図5】 図2の5-5線における部分断面図。

【図6】 容器本体を示す斜視図。

【図7】 仕切り板及び袋係止体を分解して示す斜視図。

【図8】 蓋板を部分的に断面にして示す斜視図。

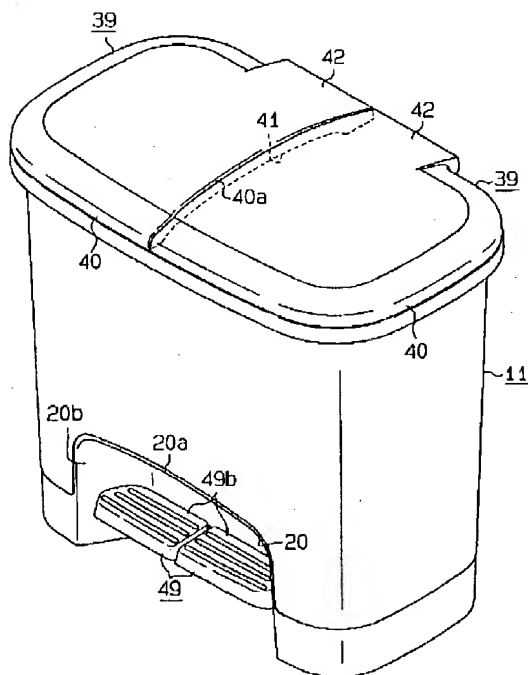
【図9】 容器本体に対する蓋板の支持構成を拡大して示す分解断面図。

【図10】 蓋板開放用の操作ペダルを示す斜視図。

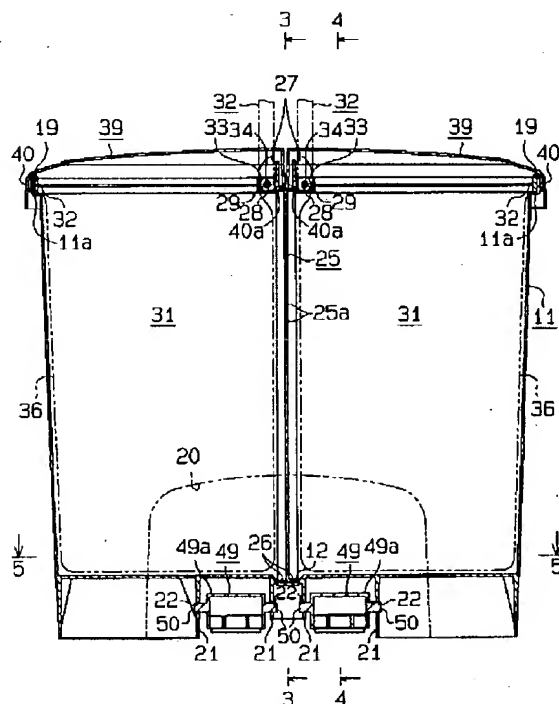
【符号の説明】

11…容器本体、13…係合部としての係合孔、25…仕切り板、30…係合部としての係合突起、31…収容空間、32…係止リング、36…収容袋、39…蓋板、49…操作ペダル、54…連結板。

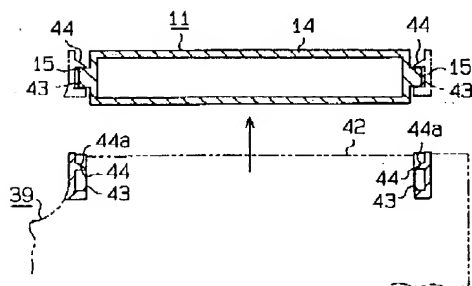
【図1】



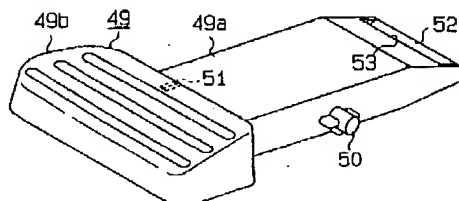
【図2】



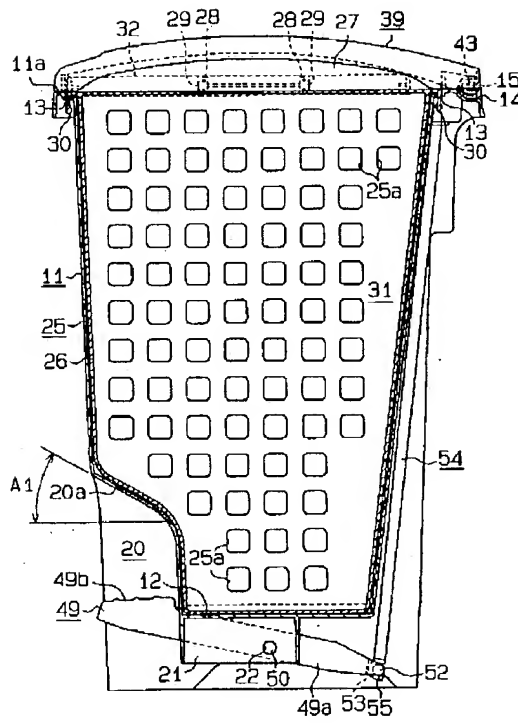
【図9】



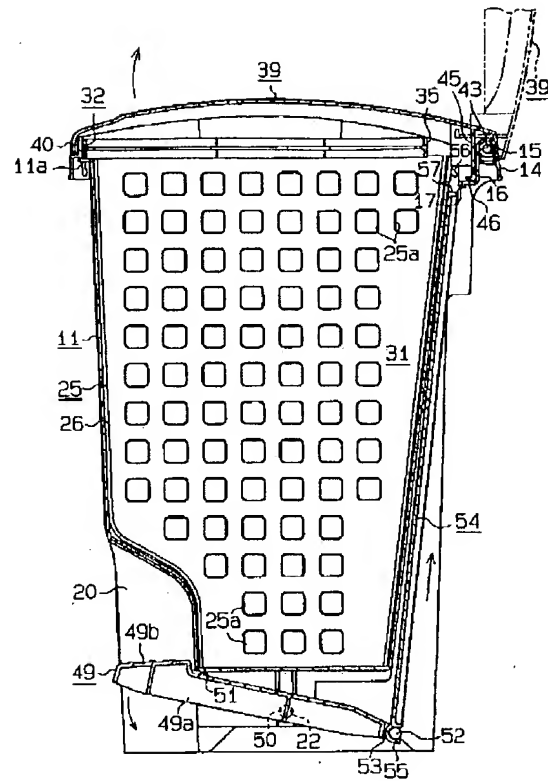
【図10】



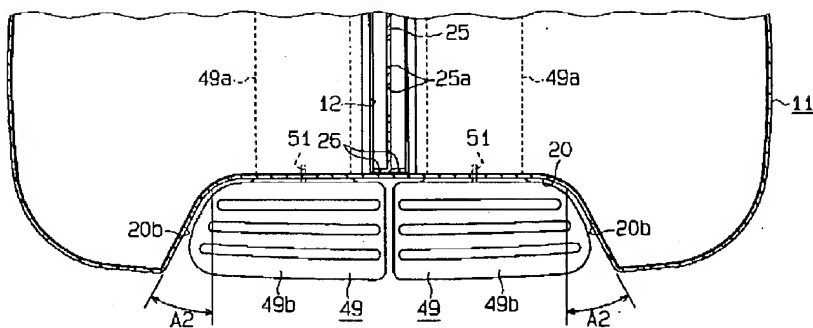
【図3】



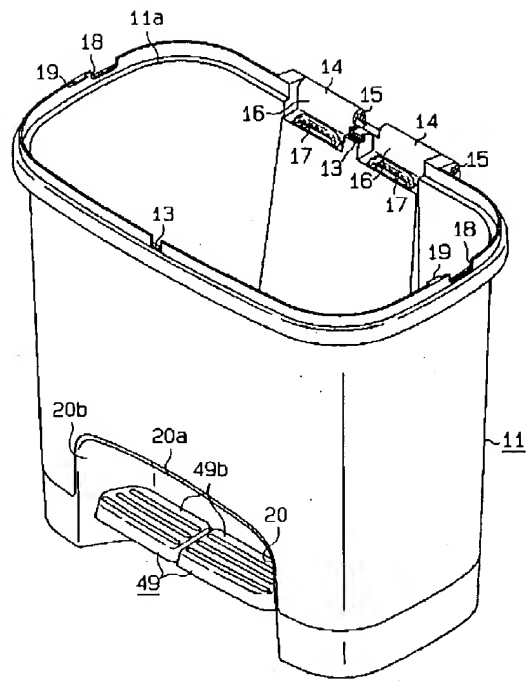
【図4】



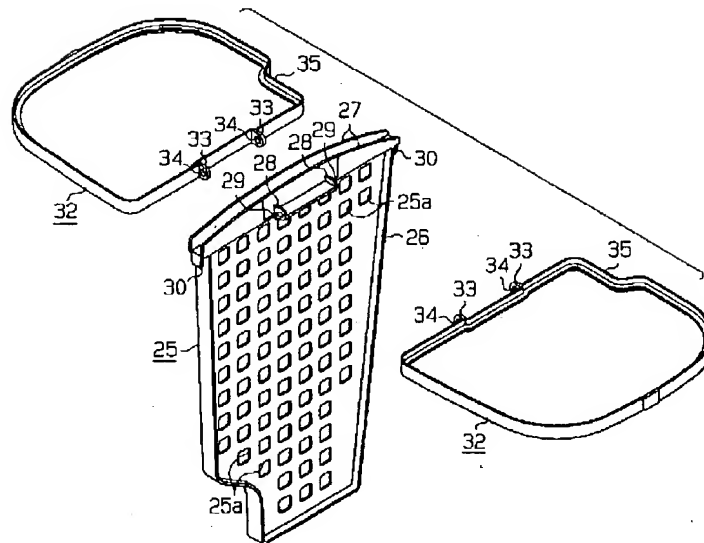
【図5】



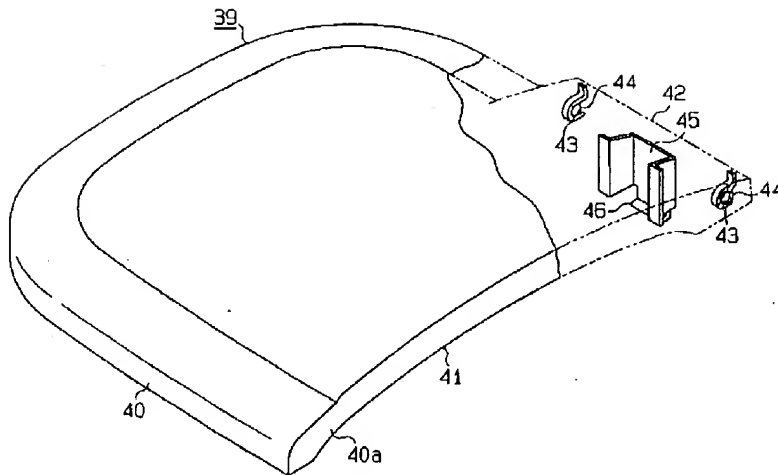
【図6】



【図7】

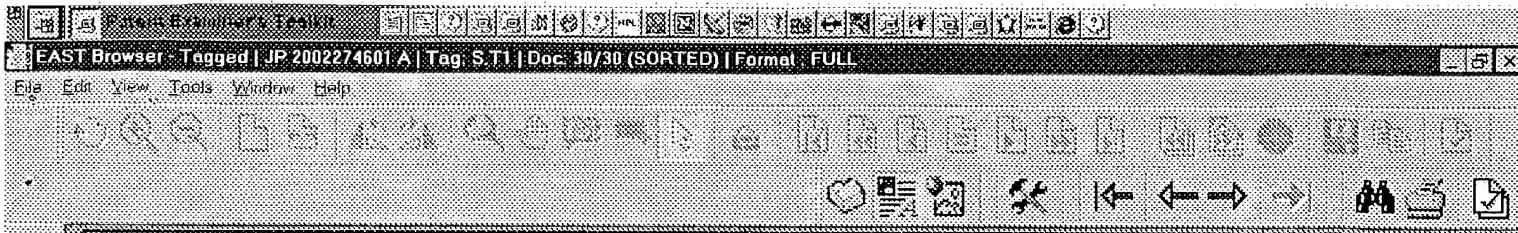


【図8】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E023 AA19 AA20 MA04 MB04
3E062 AA01 AB20 AC02 EA02 EB02
EC01
3E084 AA05 AA13 AA24 AB10 BA03
CA02 CB03 CC03 DA03 DC03
FA01 GA07 GB07 GB13 LB03
LB10



PAT-NO: JP02002274601A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002274601 A
TITLE: SORTING VESSEL
PUBN-DATE: September 25, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KAMIYA, KAZUYUKI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
GIFU PLAST IND CO LTD	N/A

APPL-NO: JP2001392487

APPL-DATE: January 20, 1997

INT-CL (IPC): B65F001/00, B65D043/26 , B65F001/14 , B65D025/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a sorting vessel having an enhanced appearance and capable of preventing the front and rear walls of the vessel body from swelling to the outside.

SOLUTION: A partitioning plate 25 is installed upright in the vessel body 11 in the form approximately of a quadrangular cylinder with the oversurface left open, and the inside of the vessel body 11 is partitioned to the left and right into a plurality of storage spaces 31 for storing in assortment any objects such as rubbish, etc. A pair of engaging holes 13 are formed in front of and behind the open edge of the vessel body 11, while a pair of engaging projections 30 to engage the holes 13 are formed at the front and rear ends of the partitioning plate 25. By engagement of the holes 13 with the projections 30, the front and rear walls of the vessel body 11 are held in coupled condition through the partitioning plate 25.

COPYRIGHT: (C)2002, JPO